

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 10日

中施策事業名	社会福祉推進事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している		
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する		
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多様な主体者と福祉の向上が図られている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・社会福祉の調査及び統計に関すること ・犯罪被害者に関すること ・社会福祉法人 監査に関すること ・地域福祉計画に関すること ・自殺予防対策に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
医療や福祉施設、 制度の利用者の満足度※	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	64	65	67.7	0	0	0
	実績値	60.6	60.7				
	単位	%					
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				78千円	4, 384千円	
	a 事業費合計			78千円	4, 384千円	108千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				0千円	90千円
③ コスト (①－②)				78千円	4, 294千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1 円	62 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>主な事業については、計画期間が2025年から始まる「豊明市第3次地域福祉計画・第5次地域福祉活動計画」の策定を行った。また、第2次計画等の最終年度として、基本理念「つながりながら 共に暮らすまち とよあけ」につながる「あいさつ運動」については、あいさつ運動推進隊登録人数を5年度末の283人から6年度末は434人に増加させるなど、人と人がつながる取り組みを図ることができた。このことで、安全・安心に暮らすことができる”まち”とよあけに寄与することができた。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	第3次計画に位置付けられた施策体系に基づいた取組内容について、「あいさつ」からはじまる地域づくり等の重点施策を設け、市民が参加できるあいさつに関するイベントなどを計画していくなど、適切に実施していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	計画の中で位置づけた取り組みについて、継続して評価・分析をする中で、事業を進める。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 5日

中施策事業名	障がい福祉推進事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している		
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する		
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	障害者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障害福祉サービス事業者等と連携し、多様な主体と障がい福祉の向上が図られている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 障害者福祉計画等に関すること ・ 尾張東部権利擁護支援センターに関すること ・ 障害者の就労に関すること ・ 虐待防止に関すること ・ 障害者差別解消法に関すること ・ 障害者理解促進事業に関すること ・ 障害者スポーツ振興事業に関すること ・ 災害時要支援者名簿等に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市内障害福祉サービス事業所の数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	34	42	43	53	0	0
	実績値	56	68				
単位	箇所						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				3,071千円	6,852千円	
	a 事業費合計			3,071千円	6,852千円	8,347千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				3,071千円	6,852千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				45 円	100 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 令和6年度から令和11年度を計画期間とする「第4次豊明市障害者福祉計画」及び「第7期豊明市障害福祉計画・第3期豊明市障害児福祉計画」に基づいた取り組みを推進できた。具体的には、障がい者の就労に関して、ハローワークと連携して市内企業を訪問し、障がい者雇用についての理解を深めたり、障がい者スポーツ振興事業として、レクボッチャ大会を開催し、障がいの有無にかかわらず、世代を超えた交流を図ったりすることで、障がい者の就労や生きがいづくりを推進した。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和6年度に取り組んだ施策の進捗状況や課題を把握し、庁内関係各課や関係機関等と協議のうえ、障がい者福祉施策の評価・分析することで、「誰もがいきいきと暮らす福祉のまち」を実現していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	毎年度、計画に位置づけられた取組みの進捗状況や課題を把握し、庁内関係各課や関係機関等と協議のうえ、障がい者福祉施策の評価・分析することで、「誰もがいきいきと暮らす福祉のまち」を実現していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 5日

中施策事業名	障がい福祉サービス事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	サービスや支援を充実し、負担を軽減する		
④中施策事業の対象	障がいを持つ市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいがあっても幸せを実感できる生活を送っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・各種障害者手帳に関すること ・各種障害者手当に関すること ・障害福祉サービスに関すること(認定審査会、支払、支給決定等) ・地域生活支援事業に関すること(日常生活用具、移動支援、日中一時支援等) ・精神障害者の入院に関する市長同意に関すること ・補装具に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
障がい福祉サービス支給決定数（18歳以上）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	450	450	455	460	0	0
	実績値	525	577				
単位	人						
自分の働き方に満足している障がい者の割合※	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	72.8	74	75.9	76	0	0
	実績値	68.1	66.4				
単位	%						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				1,489,237千円	1,717,411千円	
人 件 費	a 事業費合計			1,489,237千円	1,717,411千円	1,681,942千円
	正規職員	人数	0 人	0 人		
		b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
② 補助金等（収入）				966,125千円	1,045,082千円	1,102,775千円
③ コスト（①－②）				523,112千円	672,329千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				7,601 円	9,770 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 身体障害者手帳及び療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者数は、全体で増加傾向にある。(令和5年度：3,695人 令和6年度：3,762人) また、障がい者福祉サービスの利用実績も増加傾向にある中で、まちづくり指標である「自分の働き方に満足している障がい者の割合」は減少傾向にある。障がい者の就労に関する支援の質の向上が求められていると考える。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和7年10月1日に施行される「就労選択支援」を円滑に実施することで、障がい者本人が就労先や働き方についてよりよい選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	国・県、近隣自治体等の動向に注視し、障がい福祉サービスの充実を図っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 15日

中施策事業名	障がい者相談支援事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	サービスや支援を充実し、負担を軽減する		
④中施策事業の対象	障がいを持つ市民及び家族		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	相談支援を通して課題解決に向けて自立的に行動をとることができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・精神障害福祉関係会議に関すること ・相談支援事業に関すること ・自立支援協議会（運営会議、連絡会・研修会、各部会・PT等を含む）に関すること ・事業所指定に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
障がい者基幹相談 支援事業委託の相 談件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	9,100	9,150	9,200	9,200	0	0
	実績値	9,490	9,149				
	単位 件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				22, 200千円	31, 894千円	
	a 事業費合計			22, 200千円	31, 894千円	31, 909千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等（収入）				6, 639千円	13, 437千円	13, 437千円
③ コスト（①－②）				15, 561千円	18, 457千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				226 円	268 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A</p> <p>障がい者基幹相談支援事業委託の相談件数は減少したが、目標値はほぼ達成している状況で、障がい者基幹相談支援センター「フィット」が認知されてきていると考える。相談内容も複雑かつ複合的な課題が多く、重層支援センターや市内福祉事業所等と連携しながら課題解決に向けて支援している。また、自立支援協議会及び各部会・PT、連絡会等の中でも情報提供・共有を積極的に進め、相談支援体制の強化を図っている。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	障がい者基幹相談支援センター「フィット」が地域生活支援拠点に位置づけられた相談支援事業者として、情報連携等を担うコーディネーターの役割を担ってもらうとともに、地域移行支援相談事業を推進する。相談支援事業はサービス利用の要であり、きめ細やかなサービス利用調整が行えるよう、自立支援協議会及び各部会・PT、連絡会等の中でも情報提供・共有を積極的に進め、相談支援体制の強化を図っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	障がい者基幹相談支援センター「フィット」と連携しながら、地域における障がい者支援が円滑に進むよう、引き続き障がい者の相談ニーズを把握していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 20日

中施策事業名	社会福祉協議会関連事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域福祉の向上を図ることで、住み慣れた地域で安心して暮らすことができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・社会福祉協議会及びその他福祉団体に関すること ・総合福祉会館の管理に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ボランティア団体としての活動総人数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	2,100	2,100	2,100	0	0	0
	実績値	1,961	1,967				
単位	人						
福祉会館の利用者数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	25,000	26,500	26,500	0	0	0
	実績値	17,992	16,317				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				72, 301千円	68, 932千円	
	a 事業費合計			72, 301千円	68, 932千円	68, 928千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				72, 301千円	68, 932千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1, 051 円	1, 002 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>社会福祉協議会及びその他福祉団体に関することでは、各団体への補助金等の交付により、地域住民の安心な暮らしのため地域福祉の向上を図ることができた。一方で、評価指標の目標の達成状況については、目標値に届いていないものの、前年度比較において、評価指標の実績値は増加となっている。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	継続して地域での人と人とのつながりをつくるために社会福祉協議会による、ふれあいサロン事業をはじめとした地域と連携した事業の推進を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き社会福祉協議会と連携を図る中で、各事業を推進する。また、老朽化の進んでいる総合福祉会館については、利用者が安全・安心に利用できるように公共施設管理課とも連携し、必要な改修・修繕等を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 15日

中施策事業名	民生委員、児童委員関係事務	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民及び民生児童委員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	民生委員が住民の身近な相談先となることで、市民が安心して暮らすことができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 民生児童委員に関すること ・ 民協福祉広報部会に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地域から孤立して いないと思っている 市民の割合※	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	84	86	87	0	0	0
	実績値	78.7	78.6				
	単位	%					
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				10,490千円	10,473千円	
	a 事業費合計			10,490千円	10,473千円	10,558千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			5,928千円	6,041千円
③ コスト (①－②)			4,562千円	4,432千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			66 円	64 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>民生児童委員に関することでは、各民生児童委員の日々の見守り活動等により、地域でのつながりづくりの役目を担うことができた。また、「チャリティバザー」を本年も実施するにあたり、より環境に配慮できるよう販売方法の工夫をした。さらに、愛知県社会福祉協議会主催の各動画研修に参加するように呼び掛け、ほとんどの委員が受講することができた。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	市内全域での民生児童委員活動を充実させるため、さまざまな研修機会を確保していく。加えて、愛知県社会福祉協議会主催の各研修等にも気軽に参加できるよう、研修の在り方を工夫していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	民生児童委員活動のより一層のレベル向上を図るため、愛知県社会福祉協議会主催の委員向けの各研修等は積極的に参加するようにし、受講する体制の面でも各委員の方が参加しやすくなるよう工夫していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 20日

中施策事業名	社会福祉団体事務	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民及び社会福祉団体		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	社会福祉団体の活動を支援することで、地域福祉が向上し、暮らしやすさが向上している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・日本赤十字社に関すること ・保護司会に関すること(社会を明るくする運動)		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
社会を明るくする運動の啓発のための市民動員	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	600	600	600	0	0	0
	実績値	1,000	1,000				
	単位 人						
社会を明るくする運動記念講演会参加者	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	100	100	100	0	0	0
	実績値	33	35				
	単位 人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				776千円	839千円	
	a 事業費合計			776千円	839千円	816千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				776千円	839千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				11 円	12 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>日本赤十字社や保護司会に関することでは、事務局として各社会福祉団体の活動を支援することで、地域福祉の向上を図ることができた。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	引き続き、各福祉団体の安定的な活動を支援していくこととする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き、各福祉団体の安定的な活動を支援していくこととする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 5日

中施策事業名	障がい福祉団体事務	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民及び障がい福祉団体		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がい福祉団体の活動を支援することで、障がい者及び家族が活発に交流することができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 各種団体の補助金・委託に関すること ・ 民協障がい者福祉部会に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
豊明市心身障害者児福祉連合会の会員数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	235	235	235	235	0	0
	実績値	131	120				
単位	人						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				6,278千円	170千円		
	a 事業費合計			6,278千円	170千円	170千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)			6,278千円	170千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				91 円	2 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>会員数が減少傾向にあり、担い手不足が顕著となっている。その中で、当事者団体等が実施する啓発活動等について、情報把握し、その活動を支援した。具体的には、障がい福祉団体にレクボッチャ大会の実施を委託し、障がいの有無にかかわらず世代を超えた交流を図り、つながり合える地域づくりを推進した。民生児童委員の障がい者福祉部会では、福祉団体が実施するオリエンテーリングやクリスマス会にボランティアとして参加し、障がい者とその家族が活発に交流できるように支援した。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	共生社会の実現に向けて、福祉団体等が実施する啓発活動等に対して補助したり、障がい者の支援につながる事業を委託するなどして、障がいのある人が地域とつながり、多様な人との交流ができるよう支援する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き、当事者団体等が実施する啓発活動等について、情報把握し、その活動を支援することで、多様な障がいや特性への理解を促進する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 20日

中施策事業名	生活困窮者等扶助事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる		
④中施策事業の対象	経済面で困窮したり、障がいや疾患により支援が必要な状態になっている市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	相談事業を通して適切な情報提供を受けることができ、就職や支援につなげることで安心して生活できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・生活困窮者自立促進支援事業に関すること ・ひきこもり対策事業に関すること ・生活困窮者学習支援事業に関すること ・子どもの貧困対策事業に関すること ・包括的就労推進事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
就労相談による就 職実績の向上（実 就労者数÷就労相 談者）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	70	70	70	0	0	0
	実績値	57	38				
	単位	%					
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				712, 218千円	305, 380千円	
	a 事業費合計			712, 218千円	305, 380千円	13, 796千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				30, 213千円	270, 120千円	21, 520千円
③ コスト (①－②)				682, 005千円	35, 260千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				9, 910 円	512 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>令和6年度においては、国の方針に基づき「物価高騰対応重点支援給付金事業」を実施した。また、働きたいを応援するための相談や就労支援、このほか、生活困窮者自立支援として、家計のことなど暮らしの困りごとの相談を受ける中で支援策を検討するほか、一人ひとりに寄り添った相談支援を社会福祉協議会と連携して対応を図ってきた。さらに子どもがいる生活困窮家庭に対する物資配布、学習支援等の事業を実施した。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	生活をするうえで、様々な困難を抱える人が地域で自立した生活が送れるよう引き続き一人ひとりに寄り添った相談を適切に行っていき、相談者にあった必要な支援につなげていくこととする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	生活困窮者自立支援については、自立生活相談支援センターと、ひきこもり相談については、重層支援センターと連携しながら必要に応じて情報提供し合うなど、きめ細やかな支援ができるように進めていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 20日

中施策事業名	生活保護扶助事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる		
④中施策事業の対象	生活保護法による被保護家庭		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	生活保護法による扶助の給付を行うことで、最低限度の生活を保障する		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・生活保護の相談に関すること ・保護費支給に関すること ・医療券、介護券の発行、点検に関すること ・資産、年金、収入等の調査事務に関すること ・就労支援事業に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
後発薬品使用率	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	75	75	75	0	0	0
	実績値	81.8	86.2				
単位	%						
被保護者数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	380	380	380	0	0	0
	実績値	345	375				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				694, 230千円	664, 444千円	
	a 事業費合計			694, 230千円	664, 444千円	654, 002千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				518, 791千円	528, 483千円	483, 102千円
③ コスト (①－②)				175, 439千円	135, 961千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				2, 549 円	1, 976 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A</p> <p>生活保護の被保護者数は前年度と比較して増加している。これに伴って生活保護費の支給額も増えており、特にこの大きな要因の一つとして、医療扶助費が増加となっている。このような中で、ハローワークと連携を図り、生活保護を受けることなく、自立することが可能となるよう就労支援等の取り組みを行った。</p> <p>このほか、生活に困窮する方の相談に応じ、相談者が抱える課題を包括的に受け止め、必要な情報提供及び助言を行うなど生活の自立に向けた支援を行った。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	生活保護受給者等就労自立促進事業の就労相談を活用し、生活の自立に向けた支援等を行うこととする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	ハローワークと今まで以上に連携を図り、生活保護受給者等就労自立促進事業を活用し、生活保護受給者の就労自立を支援する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 10日

中施策事業名	重層的支援体制整備事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民の複合的・複雑化する生活課題に包括的に対応できる福祉体制の整備がされている。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 重層的支援体制整備 ・ 地域共生社会推進事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
多機関で実施した 会議数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	30	32	35	0	0	0
	実績値	17	258				
単位	回						
支援が必要になった時に活用できるサービスを知っている市民の割合 ※	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	53	61	69	0	0	0
	実績値	44.1	46.8				
単位	%						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				33, 007千円	36, 984千円	
	a 事業費合計			33, 007千円	36, 984千円	56, 086千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				16, 312千円
③ コスト (①－②)				16, 695千円	18, 001千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				243 円	262 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>複雑かつ複合化した福祉課題を抱えた方を包括的に受け止め、伴走支援を行いつつ、適切な支援につなげていく体制を構築するため、新たに「重層的支援センター」を設置し、①包括的相談支援②参加支援③地域づくり④アウトリーチを通じた継続的支援⑤多機関協働の5つの事業を効果的に進めてきた。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和7年度より、さらに包括的なサポート体制を図るため、生活困窮者自立支援相談事業を重層支援センターに併設し、高齢者・子ども・障がい者・生活困窮者等の枠組みを超えた相談を受け止める	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	福祉的課題を抱える当事者との信頼関係が構築できたか、支持する専門職等が支援しやすくなったかなどのことを評価し、適切な支援につなげていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 15日

中施策事業名	障がい児福祉サービス事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	小野寺 良夫
①めざすまちの姿	30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている		
②大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる		
③中施策	好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする		
④中施策事業の対象	障がい児及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいに応じた療育支援や居場所を利用することで発達を促し、個性を伸ばすことができる。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 障がい児福祉サービス事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
障がい児福祉サービス事業利用件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	420	430	430	430	0	0
	実績値	387	438				
単位	件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				517,416千円	615,214千円	
	a 事業費合計			517,416千円	615,214千円	586,664千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				351,894千円	459,238千円	439,998千円
③ コスト (①－②)				165,522千円	155,976千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				2,405 円	2,267 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 障がい児福祉サービスの利用件数は増加傾向にあり、それに伴い予算規模も年々増加傾向にある。ただ、その7割以上が国県の財源であり、コストとしては適正であるとする。障がい児福祉サービスの利用の多くは放課後等デイサービスであるが、事業所も増加傾向にあり、令和6年度においては、市内に18事業所が開設されている状況となっている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	障がい児福祉サービス事業所の量の確保と質の向上に向けて、事業所連絡会等を通じて連携強化を図っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	障がい児に合った療育支援や居場所を確保し、障がい児とその家族を支援できる環境づくりを進めていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等